

令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部図書館

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
33-1	図書館一般事務	D	令和4年度の事業は、新型コロナウイルス感染症対策として、前年度に引き続き、定員を減らし、事業数も減らしていたことから、目標値に達することができなかった。ただし、中止した事業はほとんどなかったため、徐々に参加人数は回復してきている。	改善推進	令和5年度は、減らしていた定員を、元の定員数に戻していく。行事の開催回数も、令和5年度は令和4年度のままとしているため、令和6年度から開催数を増やせるよう計画を立てていく。また、事業以外にも、図書館資料の利用推進として、令和5年度から在架予約を開始する。利用者にとって使いやすい図書館となるよう努めていく。
33-2	図書館資料整備事業	D	より分かりやすく本を探すための手段として、一分野の資料の分類シールを変更し、ピンポイントで本を探しやすくしサービス向上に努めた。第2次半田市子ども読書活動推進計画を進めるため、新刊購入の他に、調べ学習に役立つ本や、古くなった良書の買い替えに努めるなど、児童図書の一層の充実を心掛けた。 図書館の貸出冊数の減少は全国的にみられる事象となっており、当市でも例外ではなく、貸出点数が減少している。今後、貸出点数を如何に増やしていくかが課題である。	改善推進	利用者のニーズに合った図書資料の整備に加え、効率良く本を予約・貸出できるような電算システムの改善、電子書籍の利用拡大を図っていく必要がある。また、紙媒体での図書資料の提供の他、貴重資料のデジタル化、公開の準備を進め、時代にあわせた資料・情報提供ができるよう、知の情報基地としての機能の維持・拡張を行っていく。情報難民を生じさせないよう、あらゆる年齢層・国籍や障がいの有無に影響されず、読書の機会を提供できるよう、他課とも連携しながら利用の促進を図っていく。
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
D	<p>コロナ禍で感染症対策に留意しつつ定員を減らし、行事を開催してきたため、目標値を下回っているものの、令和3年度と比較し、図書館事業参加者数は大きく増加した。わかりやすい、使いやすい図書館を目指し、やさしい日本語での館内表示を作成したり、配置・図書分類について見直しを行った。また、令和5年4月に開始する在架予約や電子書籍の対象を在勤・在学者へ拡大することに向けて準備を行った。今後も、利用者にとって使いやすい図書館を目指し、改善していく。</p> <p>また、令和2年度に策定した「第2次半田市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書の好きな子どもを多く増やすため、計画の実効性を高めていく必要がある。その他、デジタル化資料の公開や外国籍の市民へのサービスの課題に取り組んでいく必要がある。</p>				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
D	<p>目標値には届かない数値であったが、令和3年度と比較して事業参加者数が増加したのは評価できる。また、全国的にも見られる現象であるが、貸出点数は令和3年度からも下回っているため、貸出点数を増やせるよう有効な方策を検討してほしい。</p> <p>コロナも収束したことから、今後は、本や図書館に親しめる行事を新たに計画し実施していくこと。行事以外にも、より気軽に本に親しみやすい環境を整えるため、時代にあわせた方法（ICTを活用）での事業の検討や、誰にでもより利用しやすい図書館の環境整備に努めてほしい。</p>				